

令和二年度「全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会」

(知事賞) 奨励賞

(中央審査) 佳作

「水と共に生きる」

松山市立久米中学校 三年 武智 百香

水は、あなたにとってどのような存在だろうか。水は、地球上に生まれてきた生物たちにとって欠かせないものである。私は、節水型都市ナンバー1を目指す松山市に暮らしている。松山市は、瀬戸内海で行う水産業や、柑きつ栽培も盛んである。また、一年を通して降水量が少ないので、市民の節水意識の高さは国内屈指だ。

中学一年生の時、社会科の授業で瀬戸内地方には離島が多いことを知った。離島では水の供給はどのようにしているのか、不思議に思った。私がいちばん興味をもったのは、ここ愛媛県にある釣島である。幼い頃、「しま博」というイベントで釣島を訪れたことがあったからだ。その時は、釣島灯台や、海鮮バーベキュー、クルーザーに乗せてもらい、島をめぐりっぱい楽しませてもらった。

釣島の水事情を調べてみると、毎年慢性的な水不足に悩まされていた。そのため、雨水タンクと井戸を順番に利用していたが、時には井戸水が少ないこともあり、水をめぐる争いごと絶えなかったそうだ。昭和六十二年には、興居島までは本土から海底送水管が引かれたため、興居島からタンカー船で釣島へ水を運んでいたようだ。しかしその後、島民たちの強い要望により、平成十四年に「釣島地区海水淡水化装置」が設置された。そして、この装置から供給される水によって、島の水不足は解消した。釣島では、たくさんの方々があって今では安心・安全な水を飲むことができていた。先人たちの努力が今に繋がっているのだ。この努力の結晶をこれからも守つ

ていくべきだ。これは、松山市も同じである。

先日、ドライブ途中で石手川ダムに立ち寄った。その時、私はあまり大きいとはいえないダムの大きさに衝撃を受けた。この小さなダム一つで松山市の人口約五十万人分の水を補っていると思うと、少し不安な気持ちも押し寄せてきた。元々愛媛県は降水量が少ない上に、柑きつ栽培のためにかんがい用水を使うため、約二百二十四万時間という労働時間をかけて、石手川ダムを建設したのだろう。このダム建設に携わって下さった方々、今もダムで働く方々、水に関わる仕事をしている全ての人たちに感謝の気持ちを忘れてはならない。ダムは半永久的な構造物なので、今後も適切に管理することが大切である。地域に安心と潤いをもたらすために、今もその使命を果たしてくれてもいる。人口が増えた松山市にとって石手川ダムは、貯水量が足りているとはけっしていけないそうさ。そのため、限られた貯水量を大切に考えていかなければならないのだ。

平成六年、松山市は記録的な高温と少雨により、大渇水に見舞われた。私の祖母や母は、夏になり節水を呼びかける節水カーが走り始めると、当時のつらかった経験を思い出すそうさ。この渇水時の話をよく聞いているからか、私たち中学生も夏になると友達と、

「今、石手川ダムって水あるんかな。」

「今日のニュースで貯水率六十パーセントって言よったよ。」
という様な会話をよくする。水に敏感な松山市民だからこそなのだと思う。

私たち中学生に出来ることといえば、トイレの大小レバーを使い分けたり、顔を洗う時は洗面器にためた水を使ったりすることだ。このように、自分の生活の中で出来ることを見つけて心がけていきたい。そして、渇水を体験したこの節水型都市の松山市だからこそ、水の大切さや節水への取り組みについて、他の都市にアピールしていく使命がある。